

日本初公開!

新興国投資

中国だけでなく、タイやロシア、ベトナム、さらにはドバイ株まで……日本で海外の個別株を取り扱う証券会社が増え市場にしがみついた理由はない! 冒険投資家がスーダンで見つけてきた日本未公開の巨大プロジェクトの全貌や、ドバイ



幹線道路から少し外れると、舗装されていない凹凸の砂利道ばかり。汚い水溜まりができていたり、道路脇で販売していたりする菓子には我々が想像するアフリカの途上の姿だ

早速周囲を散策してみた。
「行く前はスーダンってどんなところなのか怖かったんですけど、案外治安はよかったですね。というのも、街中に自動小銃を持った警官がたくさんいて、しかもすごくヒマそうなんです。女性や子供も夜中に出歩いているし。スーダンの国土は日本の7倍あるから、西部のダルフル地方で紛争があっても、数百km離れた首都のハルトウムは安全なんですな」
いや、普通、安全な国の警官は自動小銃なんてぶら下げてないと思うんですけど……
翌朝、レンタカーを手配して早速活動を開始する予定だったのだが、思わぬ困難が待っていた。
「まずね、地図がないんです。空港でもホテルでも、普通は地図が置いてあるじゃないですか。それがなかったからホテルのフロントで「タウンマップください」って聞いたらい「ない」って。ハルトウムって首都なのに(笑)」
とりあえず移動手段としてレンタカーを借りる。価格は運転手込

帯。'03年2月から'06年2月の3年間で18万人が殺害されており、今もなお衝突が続いている。スーダンに投資なんて、正気ですか? 「ドバイの金融機関の人に聞くと、ドバイの次にスーダンはスリーピング・グジャイアントと言われるサウジアラビア。5年前のドバイがある」と言われるカタールなど、周辺のGCC(湾岸協力会議)諸国を挙げる人が多いんですが、「じゃあ、GCCの次は?」と聞くと、「10人中7〜8人が「スーダン」って答えるんですよ。『アフリカ』じゃなくて『スーダン』だよ」
世界の建設用クレーンの3割が集まっていると言われるドバイ。そのドバイがあるUAE(アラブ首長国連邦)は、世界一の広さの人工島や屋内スキー場、世界一高い高層ビルなどを建設して観光客を集めるとともに、法人税を免除するエコノミックフリーゾーンに



UAEのアブダビ市場に上場しているスーダンテレコムの本社も訪問、歓迎された

みて24時間5000円ほど。
「最初は「自分で運転する」って言ってたんですけど、運転しなくてよかった。だって、信号はほとんどないし、あっても壊れてるし、道路を逆走してる車もいて、そこから車がぶつかってる。しかも衝突してもすぐに動き出して、どっか行っちゃう(笑)。自分じゃ怖くて絶対運転できない」
しかし、事故でケンカが起きるわけでもなく、やはり治安はいい。街の人に聞いたら「ハルトウムは平和だ。治安はほとんどよくなってるし、仕事も増えているし、給料も増えている。ハルトウムにあれば豊かになれるから、田舎から出稼ぎに来る人が多い」って。なかでも一番忙いのは旅行会社とレンタカー屋で、ビジネス向けの通訳、ガイド、ドライバーの仕事が儲かるって言うてましたね」
そういう客向けなのか。路上には物売りが溢れているのだが、アジアの新興国とはひと味違った。「パリ島とかでも新聞とかジュースとか売ってるから、よく見かける光景だと思ってるから、売ってるものがヘンなの? スーダンでは物売りが鉄アレイとかエキスパンダーとか、高枝切りバサミとか、絨毯とか水道の蛇口とかを持ってきて売ってるんですよ(笑)。誰か買うんだよと思ってるから、買って売ればいいのに(笑)」
はたして物売りが鉄アレイを売っている国が発展するのかわ?

大企業を誘致することで、ここ数年10%近いGDP成長率を記録している。そんなUAEの次に注目される国がスーダン? にわかに信じがたいが、すでに投資を始めている人もいろいろいるらしい。
「友人のナショナル・バンク・オブ・アブダビのファンドマネジャー、デビッド・サンダースの上司はスーダンの土地を買っているらしいんですよ。だから僕もスーダンの土地を買ってきませう」
そう言い残し、石田氏はスーダンに旅立った……

「ドバイからインドやパキスタンなどの周辺国に向かう飛行機で、基本的には国に帰る出稼ぎ労働者が乗ることが多いんです。彼らは離陸後も携帯で話をしてるし、マナーもへたつくれもなかった。スーダン行き機内も同じような感じかなと思ってたんですけど、乗客はアラブ系が欧州系のビジネススマンばかりでした」
ホテルに向かうタクシーにはもちろんドライバーはない。価格交渉をして乗るが、英語はほとんど通じない。スーダンもドバイなどと同じく、アラビア語が公用語のアラブ圏なのだ。ホテルに着くと、

経済発展の可能性を探るために、石田氏はUAEのアブダビ株式市場に上場しているスタテル(スーダンテレコム)の株を買った。自らが向かった。自ら「大穴(笑)」と言う万馬券狙いの投資先だ。
「泊まったホテルからスタテルのロゴが見えたんで、運転手に聞いたら、スタテルの本社でした。アボなしたったんですけど、親切に対応してくれました」
さらに、いくつかの現地の銀行も見て回ること。
「新興国の場合、銀行を見れば経済状況が何となくわかるんですよ。国が発展するためには銀行がリーダースhipを取るわけで、銀行が潤わない国はほかの産業も潤わない。スーダンの銀行はキレイでしたよ。銀行だけはクーラーも効いて、ドバイや日本と変わらない」
しかし、日本円を両替しようとしても街の両替商はもちろん、銀行でもできなかった。
「お金がなくなってきたんで、両替できるところを探してもらった」
UAEのアブダビ市場に上場しているスーダンテレコムの本社も訪問、歓迎された

独走人勝ち!!

ている今、サブプライムローン問題で一人負けの日本株を取り扱う証券会社の情報を日本一早く大公開!



潜入ルポ

ドバイ株を開拓した冒険投資家の次の標的は……

内戦中のスーダン 潜入で掴んだ日本初公開の超巨大プロジェクトとは!?



上が日本初公開(?)のハルトウムの5年後の姿。下が幹線道路しか舗装されていない今のハルトウム

「ドバイの次にアツくなるのはスーダンらしいですよ」
ドバイ株の第一人者で冒険投資家の石田和靖氏から連絡があったのは今年の4月上旬。しかし、スーダンと言えば、アラブ系の政府軍と民兵によって非アラブ系の住民が大量に虐殺されている「ダルフル紛争」が起きている危険地帯



「都・ハルトウムは意外に治安がいい!」
ドバイからスーダンまでのフライトはわずか4時間。オイルマネーで経済発展を続けるGCC諸国とは、紅海を挟んで対岸に位置している。スーダンに降り立ったのは日が沈む直前だった。
「(二)を覚えて、200ドルを10スーダンポンド札で受け取ると同時に、(三)ハルトウム市内では、自動小銃を構えた警官が街中のいたるところでヒマをうっている

「ドバイからインドやパキスタンなどの周辺国に向かう飛行機で、基本的には国に帰る出稼ぎ労働者が乗ることが多いんです。彼らは離陸後も携帯で話をしてるし、マナーもへたつくれもなかった。スーダン行き機内も同じような感じかなと思ってたんですけど、乗客はアラブ系が欧州系のビジネススマンばかりでした」
ホテルに向かうタクシーにはもちろんドライバーはない。価格交渉をして乗るが、英語はほとんど通じない。スーダンもドバイなどと同じく、アラビア語が公用語のアラブ圏なのだ。ホテルに着くと、

World Investors.TV

http://worldinvestors.tv/

石田和靖氏

会計事務所を経て独立。ブログ「香港資産運用奮闘記」(http://kowlon.livedoor.biz/)や書籍「15万円から始める本気の海外投資シリーズ」で、香港、タイ、ドバイの投資情報を発信中

石田氏主宰の海外投資SNS「World Investors」から、日本初の海外投資専門動画チャンネル「World Investors.TV」がまもなくスタート。スーダン情報もたっぷり!

「街を見る限り、ポテンシャルはありそうだけど、本格的に経済が発展するのはまだ先だから、不動産や株に投資するには早いかな」という印象もありました。最終日にスーダンの財閥企業・ダルグループを訪問するまでは……」

5年後、スーダンにリトルドバイができる!

実はスーダン訪問前、石田氏はスーダン企業に取材をしようと試みたが、ハルトウム証券取引所のサイトでも上場企業のプロファイルがわからない状態。しかし、スーダンに旅行しつづけた、某有名日本企業のパイ駐在員を務める知人と会い、食事をしながらアポイントメントが実現しなかった話をすると、「スーダンの企業と取引をしたことがあるので紹介しましょうか?」と提案してくれた。



ハルトウム市内にある外国人向けのスーパーやフードコートが入っており、近くには遊園地まで。しかし、20~30分の滞在中に2回も停電するなど、インフラは未整備のようだ



「同僚でも」と聞いて訪れたスーダン中央銀行。銀行はどれも立派でクラウも完備

企業だからハルトウムの中心部にあると思ってホテルで聞いたたら、タクシードライバーもかかる距離。でも、もうお金がなかったたので、一度はドバイの知人に「お金が足りないから申し訳ないけどキャンセルしてほしい」とお願いしたんです。すると、彼から折り返し連絡があった。「ダルグループの車がホテルにお迎えに上がるそうです。って、ホテルのロビーで待ってると、「イスイダサーン」って呼ばれて(笑)、本当にホテルにペンツが迎えに来てくれたんです」

「本社に着いたら、事業の説明をしてくれたんですが、コカ・コーラやキャタピラ、メルセデス・ベンツ、三菱自動車、プリズストーンなど、世界中の大企業の総代理店をしているような巨大企業でした。ダルグループが行っている事業内容を聞いてみると、中に不動産事業を紹介しているページが……。「ドバイみたいに巨大なビルが立ち並ぶCGが載ってたんですよ。これは何?」って聞いたら「これ



スーダンの巨大財閥・ダルグループで事業内容を説明してくれた担当者。「また来いよ」と再会を誓った

は現在進めているAlmogranプロジェクト。ハルトウムは5年後にこうなるんだ。そしてアフリカのビジネスハブを目指しているんだよ」って言われて、大画面でプロモーションビデオを見せられたんです。なんかもうハンマーで頭をぶつ叩かれたような衝撃を受けて、「ええ? マジっすか!」って気分でしたよ」



スーダン政府、UAE政府、マレーシア政府の3国が組んだ40億ドル規模のジョイントベンチャー。開発面積は1580エーカー(東京・豊島区の約半分)。第1期は5万8000人の労働者、6500室のマンション&ホテルを作るビジネス区域、第2期は3万4500室のマンション&ホテルにゴルフコースや病院、学校が併設する居住区域。完成予定は3~5年後。並行して紅海沿いのポートスーダンの開発も進む

日本でできる! アフリカファンド&進出企業狙い撃ち投資!

どを併設する40億ドル規模の計画。ドバイの株式市場に上場しているドバイスラミックバンクなどが多額の投資を行っている。「ダルフール紛争を非難する欧米諸国が経済制裁を行っても、新興国が新興国を支援する形でオイルマネーが流入していく。もちろん、

ダルフール紛争はスーダン政府が必ず解決しなきゃいけない問題で、沈黙にはもう少し時間がかかるでしょうけど、国連やアフリカ連合が平和維持軍や監視団を送って、沈黙化に向かっていきます。もし紛争が治まれば、ものすごい発展を遂げるのは間違いない」

しかし、今のところはスーダンに直接投資する手段はなさそうだが、でも、UAE政府が支援するということには、金融市場もきちんと整備されると思います」

アフリカ投資の重要性を説くのは石田和靖氏だけではない。「アフリカの潜在力は、BRICsよりはるかに大きい。投資テーマとして、見逃せません」と語るのは、経済ジャーナリストの田嶋智太郎氏だ。

フリカへの投資比率が高いものは、アフリカ株のみに投資する野村アフリカ株投資やフィデリティ・EMEA・ファンドがあります。これらのファンドなら1万円からでも投資可能だが、ファンドが投資しているのは広いアフリカ大陸の一部の国だけ。すでにある程度、株式市場が上昇している南ア

フリカや、エジプトなどが中心だ。アフリカの中央部への投資はやはり難しいのか? 「何もアフリカの企業に投資する必要はありません。アフリカの経済発展で恩恵を受ける日本企業に投資すればいいんですよ。経済発展をするということは、最初に道路や上下水道、発電所などのインフラ整備が必要ですから、その分野で世界一と言ってもいい高い技術力を誇る日本企業に必ず大きな収益チャンスがあります。例えば、人口爆発地帯であるアフリカでは、飲み水の確保が生命線です。淡水化と発電を同時に行うプラントの技術を持っているのは、丸紅などの日本企業だけ。電力不足に対応するために原子力発電所の建設も検討されていますが、原子力発電所の建設には、東芝、三菱重工、日立製作所など日本企業の技術が欠かせません。結局、どんなインフラでも、日本の高い技術力が必要になるのは間違いありません」

アフリカに投資可能なファンド

ファンド名	コメント
野村アフリカ株投資	南アフリカが84.3%、エジプトが9.4%、モロッコが2.7%。業種別では、資源やエネルギー関連への投資割合が高い。野村證券で販売中
フィデリティ・EMEA・ファンド	東欧・中東・アフリカで運用。比率は南アフリカが39.7%、エジプトが4%、ナイジェリアが3.2%。販売会社は楽天証券など
JPM中東アフリカ株式ファンド	中東とアフリカに投資。投資比率は南アフリカの投資が31%、エジプト13.3%、モロッコ1.3%。販売会社はみずほ銀行など

日本でアフリカの成長に投資できる個別株はコレだ!

銘柄名	コメント
住友化学	防虫剤を練り込んだ防マラリア蚊帳は洗濯しても5年間も防虫効果が持続。技術の無償供与などもしている
コマツ	地雷除去を通じて現地に貢献するほか、鉱山採掘用の機械などを輸出。アフリカは中国に次ぐ輸出国だ
東芝	世界最大の原子力プラントメーカー。CO2を出さないという人気の原発だが、電力不足のアフリカでは救世的存在
三菱商事	モザンビーク政府との共同出資でアルミ精錬会社を設立。利益の一部で学校を作るなど社会貢献度も高い
千代田化工建設	カタールで世界最大のLNGプラントを建設中。天然ガスを生産するアフリカでも、同社の技術は欠かせない?



田嶋智太郎氏 国際証券(現三菱UFJ証券)を経て経済ジャーナリストに。近著「FXチャート『儲け』の方程式」(アルケミックス)をはじめ、著書多数。http://www.e-minamiyama.com/

「アフリカでは蚊を媒介してマラリアなどの病気が伝染するので蚊帳は必需品。特に住友化学が作っている防虫剤を練り込んだ防マラリア蚊帳(商品名:オリセットネット)は、タンザニアの工場現地生産するほど人気の商品のようですよ」

アフリカの企業を買えなくても、高い技術力を持つアフリカでビジネスを展開するインフラ系の日本企業に投資しておけば、現地に貢献しつつ、大きな収益を手に入れることができるかも!

「日本人が知らなかった、本当のスーダンの姿。今後、どんな発展をするか、ワクワクしませんか?」

「そう語る石田氏の目は、スーダンで採掘されるどんなレアメタル

「でも、UAE政府が支援するということには、金融市場もきちんと整備されると思います」

「日本人が知らなかった、本当のスーダンの姿。今後、どんな発展をするか、ワクワクしませんか?」

「そう語る石田氏の目は、スーダンで採掘されるどんなレアメタル